

仕 様 書

1. 機 種 全身麻酔器一式

2. 構成内容 全身麻酔装置本体 1 台
気化器 2 台（セボフルラン・デスフルラン用 各 1 台）
筋弛緩モニター（成人用ハンドセンサー含む） 5 式
小児用・乳幼児用・足用・目元用センサー 各 1 本
部門システム接続費用

3. 用途・目的 安全で質の高い麻酔管理への要求が高まっているなか、新生児から成人までを対象として正確な呼吸管理を可能とするベンチレータ、機器の安全な状態を確保するためのチェック機能や補正機能などを有する麻酔器の役割が重要となっている。大気汚染の原因となる麻酔ガス（揮発性吸入麻酔薬、亜酸化窒素）の使用を必要最小限に抑え、かつ麻酔薬使用量を抑制可能な低流量麻酔を、安全に行えることも重要である。
また、患者の神経筋遮断状態をモニタリングするための筋弛緩モニターについて、電気刺激により生じる筋肉の動きの加速度を測定することで、又は筋収縮を目視評価することでモニタリングされる。

4. 仕様内容
全身麻酔装置について
 - 4-1 本体寸法は、高さ 1410mm、幅 750mm、奥行 700mm 以内収まるサイズであること。
 - 4-2 フレッシュガスは総流量および酸素濃度を設定するミキサー方式であること。
 - 4-3 中央配管および予備用ガスボンベを含む全てのガス供給が停止した際にも室内大気を引き込んで機械換気ができる機能を有すること。
 - 4-4 電源遮断時にも酸素、麻酔薬の供給が可能で、手動換気を継続できること。
 - 4-5 麻酔ガスモニターのモジュールは内蔵タイプであること
 - 4-6 ベンチレータは電子制御ピストン方式であること。
 - 4-7 換気モードとして、従量式、従圧式、オートフローを搭載し、全てのモードでシンクロ機能（SIMV）やプレッシャーサポート機能を併用できること。
 - 4-8 流量やモニターデータを表示する 15 インチ以上のタッチスクリーンを装備すること。
 - 4-9 当院職員と協議の上、既存の血行動態モニターを設置するためのアームを附属すること。
 - 4-10 患者システムは低流量麻酔時の結露を防止するために呼吸ガスを加温する機構を有すること。
 - 4-11 麻酔薬液容量はセボフルレン 360ml 以上、デスフルレン 300ml 以上であること。
 - 4-12 作業スペースを確保するための、跳ね上げ式のサブテーブルを附属すること。
 - 4-13 ケーブルやホース等を巻き込まないように、キャスターガードを附属すること。

筋弛緩モニターについて

- 4-15 本体寸法は、高さ 75 mm × 幅 155 mm × 奥行 60 mm 以下であること。
- 4-16 電気刺激で生じる患者の筋肉の動きを三次元の加速度センサーにより感知して数値化できること。
- 4-17 キャリブレーションが不要であること。
- 4-18 5種類のセンサーを有し選択できること。
- 4-19 内蔵バッテリーを有すること。
- 4-20 センサーはリユーザブルであること。
- 4-21 各種症例に対応できるように、小児用・乳幼児用・足用・目元用センサーをそれぞれ 1 本付属すること。

システムについて

- 4-22 手術室部門システムへの接続を可能とすること。

5. 搬入、据付及び調整

- 5-1 既存機器の運搬から撤去までの費用は本調達に含めること。また、搬入、据付、運送等の費用についても本調達に含めること。
- 5-2 設置のスケジュールについては、当院職員と協議のうえその指示によること。

6. 保守体制

- 6-1 納入後 1 年間は、通常使用により故障した場合は無償で対応すること。
- 6-2 円滑な運用を実現するための点検、調整及び技術的サポート体制を有していること。

以上